【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	佐賀市立川副中学校
1　前年度 評価結果の概要	・学校経営、生徒指導、総合的な学習等での本校の強みが結果としても評価できた。・新年度は、学力向上、特別支援教育・人権･同和教育・道徳教育・防災教育の充実、働き方改革の推進を図りたい。・学校評価の改善。学校目標が達成できるように、また、正しく評価できるように評価計画書の改善を図りたい。学校評価項目とアンケート項目の見直しが必要。学校経営計画、学校評価、教職員の自己目標申告書をリンクさせる。教職員が意欲的に取り組むとともに客観的な評価ツールとして役立てる。・「ふるさとを思う心」を道徳教育の年間計画の中に位置づけて、確実に実践する。
2　学校教育目標	We　love　KAWASOE！ 自他を大切にし　志をもって 主体的に学び活動する　生徒の育成
3　本年度の重点目標	○あいさつの言葉が響く活気あふれる学校　○生徒の主体的な学びと活動を支える学校　○礼儀正しく、美しい学校　○安全・安心な学校　○保護者、地域とつながり信頼される学校 1　全教職員での協働体制と関係機関・保護者との連携により、校内研究の推進と特別支援教育の充実を図り、283人全ての生徒に学びと居場所を保障する。 2　キャリア教育と校内研修をさらに充実させ、志をもって、主体的に学び活動する生徒を育成する。 3　人権･同和教育、道徳教育の充実とチームでの生徒指導・教育相談体制により、自他を大切にする生徒の育成を図る。 4　ふるさとを誇りに思う生徒を育成する。 5　健やかな体の育成を図る。6　いのちを守る安全・防災教育を実践する。

4　重点取組内容・成果指標　／　中間評価　／　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）			進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・授業づくりのステップ1・2・3を意識した授業の展開 ・書く活動、話し合う活動の適切な設定 ・学びやすい学習環境づくり		・公開授業を行ったり、授業を参観したりすることによって、授業づくりの改善を図る機会は増えている。今後は、授業づくりに関わる研修や職員間における意見の交流などを通して、学びの場の充実を図っていく必要がある。	B	・年間を通して、公開授業や授業研究会を行うことができた。また、授業を提案する際は、事前事後ともに他の教職員からのアドバイス等が積極的になされ、授業づくりの改善につながった。今後は、「主体的・対話的で深い学び」の実現をどのように図っていくのかを話し合っていく必要がある。	B	・県学習状況調査の結果は教科によってばらつきがあるが、一定の成果を上げることができている。 ・生徒へのアンケート調査は、高評価である。	・学力向上コーディネーター ・研究主任
	○学習意欲の向上･学習習慣の定着	○「まいルーティン」に確実に取り組み、平日の家庭学習の時間が2時間以上の生徒の割合80%以上 ○自学に取り組む生徒の割合80%以上	・目標設定（OW64）により家庭学習に取り組むための「まいルーティン」の作成 ・「まいルーティン」による家庭学習の定着支援 ・ 自学ノートに取り組む生徒への支援		・自学ノートの提出率は、全校においてほぼ100%である。「まいルーティン」への取り組みと振り返りも見られる。今後は、自学ノート、「まいルーティン」共に、質を高めていくために、個別の学習相談などの場を設けていく。	B	・自学ノートや「まいルーティン」、テスト学習マイプランなど家庭学習を促す取組は、教職員間で共通理解を図りながら推進することができ、生徒の学びに向かう姿勢は育成できたと考える。今後は、生徒自身が学びの実感を得るために、生徒が主体となって自らPDCAサイクルを回せていける支援を検討していく必要がある。	B	・「まいルーティーン」の定着ができておらず、残念ながら家庭学習が不足している生徒がいる。	・学力向上コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動。ふるさとを誇りに思う生徒の育成する。	○生徒の自己肯定感や自尊感情を持てる生徒70%以上	・道徳教育の実践 ・人権集会や人権学習会の実施 ・地域と連携した校内外でのボランティア活動の実施 ・川副町出身の偉人の生き方を学ぶ地域教材の作成及び「ふるさとを思う心」に関する道徳教育の実施		・発達段階に応じた計画的な道徳の授業を実践している。 ・人権集会を12月に実施を予定している。 ・地域と連携した校内外でのボランティア活動を11月に実施した。 ・川副町出身の偉人の生き方を学ぶ地域教材を使用した授業を12月に実施を予定している。	B	・12月に人権集会を実施し，いじめ･命について考えることができた。また、川副町出身の佐野常民を題材とした授業を全校一斉に実施した。郷土の偉人の生き方に触れ，改めて川副町の良さを知ることができた。 ・自己肯定感や自尊感情をたかめるような授業実践を計画的に行った。	A	・全体的に、心がやさしい生徒が増えたと感じる。 ・全校一斉に佐野常民の教材を行うことは意義があり、ふるさとを誇りに思う生徒の育成ができている。生徒･保護者の評価も高い。	道徳教育推進教諭 人権･同和教育担当者 学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○校内生徒指導体制（月1回の生徒指導協議会、週1回の生徒指導部会）を整え、関係生徒及び保護者に計画的かつ組織的な関わりをもつ。 ○生活アンケートやいじめアンケートを計画的に実施し、生徒の意識の向上を図る。	・事案発生時における「報連相」に基づいた的確かつスピード感のある組織的対応の推進 ・再発防止と被害者の心のケア等、学校全体による取組の実施 ・職員の危機意識の高揚による未然防止		・いじめ防止等について、迅速に組織的に対応できている。 ・個に応じた対応に気を配ることで、心のケア・再発防止ができている。また、危機意識の高揚のためにも日頃から職員間のコミュニケーションを密にし、事案の共有に努め、共通の指導体制が確立できるように努めている。	A	・アンケート結果は、職員3.2、生徒3.4、保護者3.1、総合評価3.2であった。 ・問題行動やいじめに対して、全職員で共有し対応することができた。また、授業中だけでなく準備時間や昼休みの巡回時に積極的に声かけをし、生徒理解に努めた。	A	・認知件数や学校の取組状況から、学校がいじめの未然防止や早期対応について、学校をあげて取り組んでいる。	生徒指導主事 各学年生徒指導担当者 学年主任
	◎生徒が夢や目標、志をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標、志をもっている」について肯定的な回答をした生徒（中学3年生）80%以上	・マナー検定の実施 ・生徒自身によるOW64を使用した目標の設定 ・外部機関と連携したキャリア教育の充実 ・職場体験の実施		・マナー検定を実施し、優秀な生徒は文化発表会で自分の考えを披露した。 ・テスト計画や結果の振り返りを通して、積極的に学習に取り組むことができた。 ・コロナ禍で、職場体験を行うことができなかった。	B	・アンケート結果は，生徒が3.1，保護者が2.8，職員が2.9，総合評価が2.9であった。 ・佐野常民について自作教材を作成，実践を行ったり，マナー検定の実践を行ったりする等，自己肯定感の育成を行うことができた。	A	・マナー検定等を実施の実施は、自己肯定感の醸成に繋がっている。3年生は進路選択をしっかりできており、夢や目標を持っている。	教務 学年主任
●健康･体つくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上	・新体力テストの結果を基にした生徒自身による自己分析と目標の設定や具体的な対策の立案 ・生徒委員会活動とのタイアップによる正しい生活や適度な運動の習慣化と健康の保持増進 ・歯科保健指導の推進 ・給食指導・食育の充実		・運動習慣は二極化しており、新体力テストの結果をみると全身持久力、瞬発力が課題である。 ・生徒委員会活動を通して、「早寝・朝食・体温チェック」のアンケートの実施、保健指導、「保健体育だより」の発行などをとおして、健康な生活の意識つけにつながる活動ができた。また、11月には、希望者を募り、休み時間に運動をする取り組みも行った。 ・歯科保健指導については、今後検討する必要がある。 ・給食･食育指導は計画的に実施できている。	A	・生徒委員会活動を通して、「早寝・朝食・体温チェック」の実施と保健指導を行い、健康な生活の意識づけになったと考えられる。しかし、継続した取組ができず、習慣化することはできなかった。 ・歯科保健指導については、感染症予防のため実施できなかった。来年度は、歯科校医実施方法を検討していきたい。 ・栄養教諭による食育を実施することができた。	A	・部活動に係る基本方針に沿った活動と休養日の設定を遵守することは非常に重要である。	保健主事 養護教諭 食育推進担当 保健体育教諭 運動部活動担当
●業務改善･教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・勤務時間を意識した業務改善（仕事の優先順位、協働、効率化等）の実践 ・出退勤時刻の入力による時間管理能力の向上 ・部活動に係る基本方針に沿った活動と休養日の設定 ・定時退勤促進日の設定		・業務改善を図っているが、佐賀市教育委員会規則に掲げる時間外在校時間の達成率は45%であった。 ・定時退勤促進日の設定ができなかった。 ・基本方針に沿った部活動指導と休養日の設定はできた。	B	・部活動に係る基本方針に沿った活動と休養日の設定は100%達成できた。 ・全職員の時間外勤務時間の平均50時間であり、佐賀市教育委員会規則にある45時間は達成できなかった。しかし昨年度より縮減ができた。	B	・生徒に何かがあるときは、対応が必要になり時間外勤務も増える。 ・生徒は早くから登校している。そこは業務改善の余地がある。	管理職

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）			進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○魅力ある学校づくり	○教育相談の充実、居場所づくり、学習の場の保障	○自分には心の居場所があると感じる生徒の割合80%以上 ○自分にあった学習をすることができると思う生徒の割合80%以上	・学活ノート等を活用した生徒との信頼関係の構築 ・教育相談期間の設定等による教育相談活動の充実 ・SCや学習支援員等との連携による個々の生徒に対する支援の充実や学びの場の提供 ・SSF等の関係機関との連携やSC･SSW等の専門人材を活用した不登校生徒の支援		・SCの存在は、各学年や全校に向けた講話やカウンセラーだよりを通して周知されている。定期的に相談している生徒もいる。担任や養護教諭の声掛けだけでなく、生徒本人からの相談依頼が多くなった。 ・不登校生徒については、学習支援室への登校を促すように、SC、SSF、SSWとの連携を密にしている。教育相談部会での情報共有ができている。 ・AAI, hyper-QUの結果等を総合的にみて、数値目標が達成されているかどうかを考察したい。	A	・SCの存在が保護者、生徒に周知された。生徒の相談だけでなく、保護者からの相談件数も増えた。また、担任に相談する生徒も多く、悩みが深くならないうちに解決することができるようになった。 ・QUの結果も好転しているが、どの学年にも要支援の生徒は存在する。観察は引き続き必要である。 ・学習支援室の利用のしかたについて、全職員で共有する機会をもちたい。	A	・いじめの早期発見等同様に、教育相談・居場所づくりも組織的にしっかり対応している。	教育相談担当 管理職
	○人間関係づくり コミュニケーション能力の育成	○安心して生活できる学年・学級だと感じる生徒90%以上 ○QUテストにおける学級満足度の割合60%以上	・全校一斉方式によるSSEやグループエンカウンター等の実施による学級活動の充実 ・相互扶助・支持的風土づくりの推進による望ましい人間関係づくりの育成 ・QUテストを活用した人間関係の構築及び学級集団のモラル向上の推進		・新型コロナウイルス対策のため1学期に予定していたSSEを2回行うことができなかった。2学期にはリモート授業で全校一斉方式のSSEを2回行うことができた。今後は、ソーシャルディスタンスを意識した全校一斉方式のSSEを模索しながら取り組んでいきたい。 ・QUテストを2回行った。結果を基に全学級の今後の学級経営に生かしたい。	B	・アンケート結果では、職員2.8、生徒3.2、保護者3.2、総合評価3.1であった。安心して生活できると感じた生徒の割合も88%であった。新型コロナウイルス対策のため、リモート授業などを活用し工夫しながら実施することができた。 ・QUテストの結果では、学級満足度の割合が1年生57%、2年生56%、3年生55%と目標の60%には届かなかったが、感染症対策で多くの学校行事が縮小される中、全国平均の41%を大きく上回ったことは、各学級の取組の成果といえる。	A	・コミュニケーション能力を数値として表すことは難しい。コミュニケーションが取れているからこそ、あらそいや陰湿ないじめがないといえる。 ・生徒は楽しく学校生活を送っている。AIに上げてもいい。	特別活動担当 学年主任 学級担任
	○学校生活の向上（あいさつ・ルール・マナーに関する意識の向上） ○校内の環境整備・美化	○明るく元気なあいさつができる生徒90%以上 ○自問清掃検定の合格率80%以上	・生徒会や部活動による啓発活動や生活アンケートの実施等による生徒の意識向上 ・校内外におけるボランティア活動や日本赤十字活動への参加 ・トイレや手洗い場の清潔な環境維持についての指導の充実		・生徒会や部活動による「あいさつ運動」を継続して行なっている。また、あいさつが良くできている生徒を「あいさつマスター」として表彰し自己肯定感の高揚に努めている。 ・環境維持の面では、個人の意識に差が生じている。そのため、各種集会等で環境に対する意識の向上につながるような取組が必要だと感じている。	A	・アンケート結果は、職員3.3、生徒3.4、保護者3.3、総合評価3.3であった。「あいさつマスター」として表彰を受けた生徒が中心となり取り組むことで、相乗効果が得られた。 ・環境維持では、集会等で環境に関する話をすることで意識を高めた。その結果、自問清掃に積極的に取り組む生徒の増加につながった。	A	・地域では、中学生の悪い評判はほとんどない。 ・中学生は毎日よくあいさつをしてくれる。	生徒指導主事 各学年生徒指導担当者 部活動担当 生徒会担当

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・校長のマネジメントのもと、各評価項目において成果が出ていると考えられる。特に心の教育及び魅力ある学校づくりでは、生徒・保護者・教職員のアンケート数値も高く、学校関係評価者からも高評価をいただいた。 ・昨年度の最終評価のにおける課題として、学力向上及び働き方改革を挙げていた。学力向上は生徒指導と両輪と位置づけ取り組んで来たが、「主体的・対話的で深い学び」の実現や家庭学習の習慣化が来年度も課題となった。働き方改革については今年度改善されてきたが、学校関係者評価にもあるように、登校時間等の見直しが必要である。 ・学校経営計画、学校評価、教職員の自己目標申告書をリンクさせることについて、教職員の意識が十分でなかった。来年度は全教職員が、学校目標の具現化のために自らの役割を認識し業務を行うことができるような学校評価にしていきたい。